自治会・町内会DX導入ハンドブック

地域活動を、無理なくデジタルへ。

電子回覧板、会費徴収、防災連絡、安否確認を段階的に整え、自治会・町内会の役員負担を軽くしながら、地域のつながりを続けるためのハンドブックです。

本資料は、総務省「自治会等における地域活動のデジタル化ハンドブック」の考え方を参考に、株式会社ネットワークサービスが自治会・町内会向けに説明しやすい形へ再構成したものです。

1

自治会・町内会を取り巻く課題

地域活動の課題は、単に「紙が古い」という話ではありません。担い手不足、世帯構成の変化、防災対応、役員の負担が重なり、これまでの運営方法だけでは続けにくくなっています。

回

回覧板が遅い

共働き世帯や単身世帯が増え、紙の回覧が止まりやすくなっています。イベント後に情報が届くこともあります。

役

役員負担が重い

配布、集計、会費徴収、問い合わせ対応が一部の役員に集中し、次の担い手が見つかりにくくなります。

防

災害時が不安

電話や戸別訪問だけでは、住民の安否や被害状況を短時間で把握することが難しくなります。

若

若い世代に届かない

活動内容が見えづらいと、現役世代や子育て世帯が参加するきっかけを持ちにくくなります。

会

会費徴収が大変

現金集金、未納確認、消込、領収の管理は手間がかかり、役員交代時にも引き継ぎが難しくなります。

続

運用が続かない

担当者が一人だけだと、役員交代やスマホへの不安でデジタル化が止まる可能性があります。

2 地域活動デジタル化でできること

電子回覧板だけでなく、会費徴収、総会、出欠確認、防災訓練、安否確認まで、自治会運営のいくつもの作業を軽くできます。

電子回覧板・お知らせ	行政文書、自治会のお知らせ、イベント案内をスマートフォンで確認できます。紙回覧と併用しながら、少しずつ移行できます。
会費徴収・決済	QRコード決済、カード決済、銀行振込などを活用し、集金や消込の負担を減らします。現金管理の不安も下げられます。
出欠確認・アンケート	清掃活動、防災訓練、総会の出欠や意見募集をオンラインで集計できます。役員が世帯ごとに確認する手間を減らせます。
総会・投票	資料共有、議案確認、書面決議、表決の集計に活用できます。紙資料の配布や回収を減らし、記録も残しやすくなります。
防災連絡・安否確認	災害時に住民が安否を回答し、役員が未回答者を把握できます。防災訓練で平時から使うことで、非常時にも使いやすくなります。
見守り・地域情報共有	高齢者見守り、掲示板、地域イベント、施設情報など、自治会を「情報が見える場所」にして参加のきっかけを増やします。

これまで

紙を印刷し、仕分け、配布し、回覧後に集計する。連絡が遅れ、役員の作業が重くなりやすい。

これから

情報はすぐ届け、回答は自動で集計。紙が必要な世帯には残しながら、地域全体で段階的に移行する。

住民・自治会・市町村・支援事業者が、地域アプリを中心に連携する全体像。

3

導入は3つの段階で進める

いきなり全世帯に導入するのではなく、課題整理、小規模な試用、効果確認の順に進めると、反発や混乱を抑えやすくなります。

準備期

課題と目的を整理する

- 現在の回覧、会費徴収、総会、防災連絡を確認する
- 自治会長、班長、会計、防災担当の困りごとを聞く
- まず使う機能を絞る
- 費用負担と補助制度を確認する

実践期

小さく試して広げる

- 役員向け説明会を開く
- 住民向け操作説明会やスマホ教室を行う
- 紙回覧でアプリ登録を案内する
- 一部の班や役員会から試用する

定着期

続く運用に整える

- 登録数、既読率、回答率を確認する
- 未登録者へのフォローを続ける
- 複数担当者を設定する
- 役員交代時の引き継ぎ資料を作る

4

ネットワークサービスの導入支援

自治会DXは、システムを入れるだけでは定着しません。説明会、スマホ教室、運用ルール、問い合わせ対応まで、地域に合わせて伴走します。

支援の考え方

高齢者を置き去りにせず、紙とデジタルを併用しながら、自治会のペースで進めます。通信・防災・電気設備の現場知見も活かし、地域に必要な仕組みを一緒に整えます。

補助金・助成制度は年度や自治体により変わります。提案時には最新情報を確認し、対象経費や申請期間を整理します。

診

自治会DX診断

回覧、会費、防災、総会、役員体制をヒアリングします。

説

説明会・スマホ教室

役員向け、住民向け、高齢者向けに分けて案内します。

初

初期設定・登録支援

団体情報、管理者、回覧カテゴリ、登録案内を整えます。

規

運用ルール作成

個人情報、投稿ルール、管理者権限、役員交代時の対応を整理します。

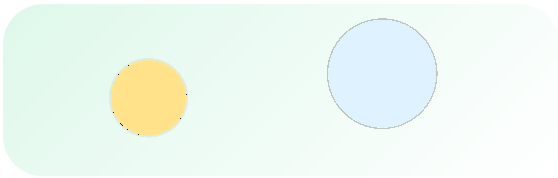
報

定着レポート

登録数、閲覧状況、回答率、次年度の改善点をまとめます。

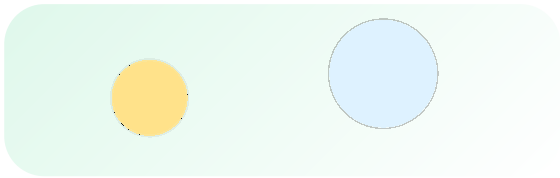
5 活用シーン別ガイド

機能名からではなく、自治会が「やりたいこと」から考えると、導入目的が伝わりやすくなります。



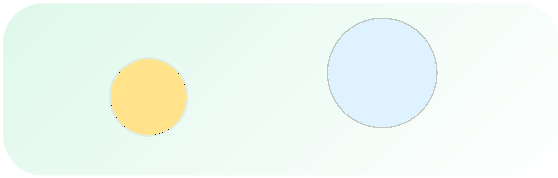
回覧を早く届けたい

電子回覧板で即時配信し、紙が必要な世帯には併用します。



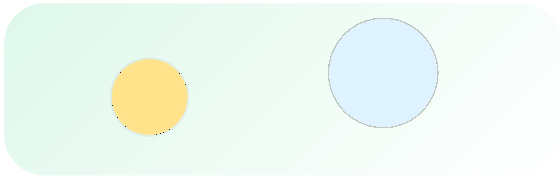
会費徴収を楽にしたい

決済手段を増やし、集金、未納確認、消込の負担を減らします。



防災訓練を実用化したい

平時の訓練で安否確認を使い、災害時に迷わない状態を作ります。



若い世代へ届けたい

地域活動を見える化し、参加しやすい入口を増やします。

6 個人情報保護と安全な運用

自治会も、氏名、住所、電話番号、メールアドレスなどを扱う場合は、個人情報の扱いを整理する必要があります。便利さと安心をセットで説明します。

同

利用目的と本人同意

何のために情報を使うのか、誰が見るのか、いつまで保管するのかを説明し、必要に応じて同意を取得します。

権

管理者権限の設定

会長、会計、防災担当など、役割ごとに操作範囲を分け、不要な情報にアクセスしない設計にします。

写

投稿・写真のルール

顔写真、子ども、位置情報、災害時情報の投稿ルールを決め、トラブルを防ぎます。

交

役員交代時の対応

管理者変更、パスワード管理、退任者の権限停止、引き継ぎ資料を忘れずに行います。

7

費用負担と補助制度の考え方

自治会だけに負担を寄せるのではなく、市町村補助、連合自治会での共同導入、企業協賛など、地域に合わせた形を検討します。

市町村導入

自治体が導入し、自治会が利用するモデル。

補助金活用

初期費用や利用料の一部を助成するモデル。

共同導入

連合自治会や複数自治会で費用を抑えるモデル。

官民連携

協賛、寄付、広告、ふるさと納税等を検討。

自治会負担

会費などから必要最小限の機能で始めるモデル。

8 導入前チェックリスト

説明会や提案前に、最低限ここまで整理できていると、導入後の混乱を抑えられます。

現状確認

- 世帯数、班数、役員体制を確認した
- 紙回覧の流れと困りごとを整理した
- 会費徴収と未納確認の方法を確認した
- 総会、出欠確認、アンケートの運用を確認した
- 災害時の連絡、安否確認方法を確認した

導入準備

- 最初に使う機能を絞った
- 紙との併用期間を決めた
- 管理者と問い合わせ窓口を決めた
- 個人情報の扱いを整理した
- 補助制度や費用負担を確認した

9 よくある質問

説明会でよく出る不安に、あらかじめ答えを用意しておきます。

スマホを持っていない人はどうしますか？

紙回覧や掲示板をすぐに廃止する必要はありません。必要な世帯には紙を残し、登録できる人から段階的に広げます。

高齢者が多くても導入できますか？

できます。対面説明、スマホ教室、家族や地域のサポート役を組み合わせることが重要です。

災害時だけ使えばよいですか？

災害時だけの仕組みは、いざという時に使われにくくなります。普段の回覧や防災訓練でも使うことが大切です。

個人情報は安全ですか？

利用目的、閲覧権限、管理者、退会時の対応を整理し、運用ルールとシステム設定の両方で守ります。

導入にはどのくらいかかりますか？

規模や機能によりますが、まずは役員会や一部の班で試用し、1から3か月程度で段階的に広げる進め方が現実的です。

地域活動を、続けやすい形へ。

株式会社ネットワークサービスは、自治会・町内会のデジタル化を、説明・導入・定着まで伴走します。

© 2024 Network Service Co., Ltd.